

令和7年度「新しい地方経済・生活環境創生交付金 (第2世代交付金)」に係る効果検証について

刈谷市

「新しい地方経済・生活環境創生交付金の概要」及び「行政評価委員会の進め方」

◆新しい地方経済・生活環境創生交付金について

地方がそれぞれの特性に応じた発展を遂げることができるよう、日本経済成長の起爆剤としての大規模な地方創生策を講ずるため、地方公共団体の自主性と創意工夫に基づく、地域の多様な主体の参画を通じた地方創生に資する地域の独自の取組を、計画から実施まで強力に後押しする。

◆制度概要

- 1 地方公共団体の自主性と創意工夫に基づいた、地方創生に資する地域の独自の取組を支援
- 2 ソフト＋ハードや分野間連携の事業を一体的に支援するとともに、国による伴走支援を強化
- 3 他の国庫補助金等の対象となる事業については、原則、他の国庫補助金等を優先して活用すること
- 4 産官学金労言士等の地域の多様な主体の参画による、KPIの達成度について効果検証を毎年度実施

事業メニュー	事業計画期間	交付上限額・補助率
ソフト事業	原則3か年度以内 (最長5か年度)	1自治体当たり国費：10億円／年度 補助率：1/2
拠点整備事業	原則3か年度以内 (最長5か年度)	1自治体当たり国費：10億円／年度 1事業当たり国費：10億円 補助率：1/2

◆行政評価委員会の進め方

- 1 評価の目的
 - 国が義務付ける多様な主体の参画による効果検証を行うことで、客観性を確保するとともに、効果的かつ効率的な各事業の推進を図る。
- 評価の視点及び方法
- 2 ●事業の実施や中止を判断するものではなく、各事業の進捗状況の効果測定を行う。
●事業ごとに、KPI達成度及び実績に基づいて、「課題」、「今後の方向性」や「事業効果」の内部評価の妥当性を審議する。
- 評価の進め方
- 3 ●事務局から各事業の概要、KPI達成度及び事業効果等の内部評価を説明する。
●質疑応答及び意見交換を行い、内部評価の妥当性を審議する。
- 評価結果
- 4 ●評価の結果は、市ホームページにて公開する。
●会議における意見や評価内容については、その趣旨を踏まえ、必要に応じて翌年度以降の実施計画書に反映するものとする。

令和 7 年度 「新しい地方経済・生活環境創生交付金（第 2 世代交付金）」

交付対象事業一覧

NO.	交付対象事業の名称	主な事業	令和 7 年度 交付対象事業費 (交付金額)	交付対象事業期間	事業評価組織
1	歴史・文化・芸術資源と公共空間を活用したにぎわいづくり	○刈谷城整備 ○美術館リニューアル検討	111,680千円 (55,840千円)	令和 7 ～ 9 年度	行政評価委員会
2	公共空間を活用した交流を生むにぎわいづくり	○城町図書館跡地整備	21,340千円 (10,670千円)	令和 7 ～ 9 年度	行政評価委員会
3	子どもを生み育てやすいまちづくり	○児童発達支援センター整備 ○夢が広がる未来応援事業	5,565千円 (2,782千円)	令和 7 ～ 9 年度	行政評価委員会
4	魅力ある働く場の創出プロジェクト	○スタートアップ連携促進事業 ○チャレンジショップ事業	33,324千円 (16,662千円)	令和 7 ～ 9 年度	中小企業振興会議 (11月開催)
5	市民の暮らしを支え、交流を促し活気を創出する新たな公共交通モードの実現	○デマンド交通「チョイソコ」 実証実験 ○市コミュニティバス 「かりまる」再編事業	138,336千円 (69,168千円)	令和 7 ～ 9 年度	都市交通協議会 (10月開催)
6	DX時代に向けた産業イノベーションと次世代育成プロジェクト	○オープンイノベーションを 推進するためのプログラム ○デジタル関連分野の人材や IT企業の誘致	58,280千円 (29,140千円)	令和 3 ～ 7 年度	中小企業振興会議 (11月開催)

事業概要 1【歴史・文化・芸術資源と公共空間を活用したにぎわいづくり】

申請者	愛知県刈谷市						初回採択回	令和 7 年度第 1 回募集
事業計画期間	R7-R9年度						R7年度事業費 (カッコ内は全体事業費)	111,680千円 (2,022,400千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		事業分野	まちづくり分野
目的（効果）	・「子育て世代の流出」「にぎわいの減衰」「まちへの誇りや愛着の低下」といった課題に対応し、市民に愛され「住みたい」「住み続けたい」「訪れてみたい」と市内外の人から選ばれる魅力的なまちづくりを進めるため、多様化する行政ニーズへの対応はもとより、土地の高度有効利用による多様な機能集積や公共空間を活用したにぎわいづくりの効果との相乗効果により、にぎわいを創出するため、歴史的資源である刈谷城跡をもつ亀城公園に刈谷城を復元することや新たな交流を生む公園の活用等により市内外問わず関心を引き寄せ、定住人口や関係人口の拡大を図り、もってまちのにぎわいを創出します。							
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	【ソフト事業経費】 ○亀城公園にぎわい創出事業 ・にぎわいBOXの運営（委託料） 6,787千円 ○美術館リニューアル検討事業 ・リニューアル構想の検討（委託料） 4,895千円 【拠点整備事業経費】 ○刈谷城整備 ・実施設計業務 99,998千円						〈刈谷城イメージパース〉 	
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①中心市街地の地価（+32,000円） ②亀城公園の来訪者数（+5,137人） ③亀城公園の広場を活用したイベントの実施回数（+8回） ④歴史博物館・美術館の来館者減少数（-3,696人）							

重要業績評価指標（KPI）	事業開始前 （2024年度）	令和7年度 （2025年度）	目標値 （2027年度）	KPI達成度
中心市街地の地価（円/㎡） （標準公示地点 6 箇所：司町、銀座、大手町、桜町、南 桜町、若松町の平均）	226,000	239,000(+13,000)	258,000(+32,000)	順調
亀城公園への来訪者数（人）	159,370	249,641(+90,271)	164,507(+5,137)	—
亀城公園の広場を活用したイベントの実施回数（回）	4	7(+3)	12(+8)	順調
歴史博物館・美術館の来館者減少数（人）	▲6,285 （来館者総数 110,872）	23,462 （来館者総数 134,334）	▲3,696 （来館者総数 107,176）	順調

【※カッコ内の数値は前年度値との差。KPI達成度指標：順調／横ばい／低調】

〈実績・課題・今後の方向性について〉

実績	・ 飲食や物販等の用途や地域のイベントを開催することができるにぎわいBOXを設置し、人と人との交流の場を創出した。 ・ 新しい時代に即した美術館として魅力を向上させるために、有識者や芸術関係団体と連携し、リニューアルに向けた施設機能や将来構想の検討を行った。 ・ 刈谷城の石垣・隅櫓等の復元に向けた実施設計を行った。	事業効果	〈事業効果の評価について〉	
			A	非常に効果があった （すべてのKPIが順調に推移するなど、大いに成果が得られた。）
課題	・ 亀城公園を含む周辺エリアへの回遊を促進し、地域全体の賑わいの創出やまちづくりへの波及効果を高めることが必要である。	B	B	相当程度効果があった （一部のKPIが順調に推移するなど、概ね成果が得られた。）
			C	効果があった （KPIの推移は芳しくなかったものの、事業開始以前よりも事業が前進・改善した。）
今後の方向性	・ 引き続き、刈谷城の石垣・隅櫓等の復元に向けた整備を推進するとともに、地域のイベントを開催し、人と人との交流の場を創出することで、開城に向けた機運醸成に努めるとともに、周辺エリアとの回遊性の向上等を見据えた検討を進める。		D	効果がなかった （KPIの推移が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難い。）

5

事業概要 2【公共空間を活用した交流を生むにぎわいづくり】

申請者	愛知県刈谷市						初回採択回	令和 7 年度第 1 回募集
事業計画期間	R7-R9年度						R7年度事業費 (カッコ内は全体事業費)	21,340千円 (425,000千円)
経費の種類	ソフト 事業		拠点整備 事業	✓	インフラ 整備事業		事業分野	まちづくり分野
目的（効果）	・「子育て世代の流出」「にぎわいの減衰」「まちへの誇りや愛着の低下」といった課題に対応し、市民に愛され「住みたい」「住み続けたい」「訪れてみたい」と市内外の人から選ばれる魅力的なまちづくりを進めるため、多様化する行政ニーズへの対応はもとより、土地の高度有効利用による多様な機能集積や公共空間を活用したにぎわいづくりの効果との相乗効果により、にぎわいを創出するため、老朽化により閉館した城町図書館の跡地について、新たに地域の交流と子どもの居場所づくりを目的とした施設整備を中学生や高校生、地区の代表者と検討し、歴史が感じられ、様々な世代が集うことができる施設で新たな交流を生み、にぎわいの創出を図る。							
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	【拠点整備事業経費】 ○城町図書館跡地整備 ・実施設計 21,340千円						〈城町図書館跡地施設イメージパース〉 	
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①中心市街地の人口（+550人） ②万燈祭エリアへの来訪者数（+336人） ③新たな施設で行う取組みの実施回数（+2回） ④中心市街地内の自治会加入世帯数（+255世帯）							

重要業績評価指標（KPI）	事業開始前 （2024年度）	令和7年度 （2025年度）	目標値 （2027年度）	KPI達成度
中心市街地の人口（人） （司町、寺横町、銀座、広小路、新栄町、東陽町、寿町、 大手町、住吉町、神田町、相生町、桜町、南桜町、若松町）	13,934	13,882（-52）	14,484(+550)	横ばい
万燈祭エリアの来訪者数（人）	11,390	39,852(+28,462)	11,726(+336)	—
新たな施設で行う取組みの実施回数（回）	0	0(±0)	2(+2)	—
中心市街地内の自治会加入世帯数（世帯）	6,473	6,647(+174)	6,728(+255)	順調

【※カッコ内の数値は前年度値との差。KPI達成度指標：順調／横ばい／低調】

〈実績・課題・今後の方向性について〉

実績	・令和6年度に実施したワークショップにおける、中学生・高校生や地区代表者等の意見を踏まえ、多世代交流スペースや放課後児童クラブ機能を備えた、地域住民と子育て世代等が交流できる憩いの場となる城町図書館跡地施設の実施設計を行った。	事業効果 —	〈事業効果の評価について〉	
課題	・様々な世代の住民が集い、歴史とにぎわいを感じられる施設とするため、イベントの開催や管理運営を含めた施設の運用について検討していく必要がある。		A	非常に効果があった （すべてのKPIが順調に推移するなど、大いに成果が得られた。）
今後の方向性	・城町図書館跡地施設の開設に向け、令和8～9年度に施設整備工事を実施する。		B	相当程度効果があった （一部のKPIが順調に推移するなど、概ね成果が得られた。）
			C	効果があった （KPIの推移は芳しくなかったものの、事業開始以前よりも事業が前進・改善した。）
			D	効果がなかった （KPIの推移が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難い。）

事業概要 3【子どもを生み育てやすいまちづくり】

申請者	愛知県刈谷市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					R7年度事業費 (カッコ内は全体事業費)	5,565千円 (22,182千円)
経費の種類	ソフト 事業	✓	拠点整備 事業	✓	インフラ 整備事業	事業分野	地方への人の流れ分野
目的（効果）	・核家族化の進行、女性の社会進出や就業形態の多様化、急激な物価高騰といった社会情勢の変化により、子育てに対する精神的・経済的負担が高まっていることから、その負担の軽減を図るため、子育て支援サービスの提供等、妊娠・出産・子育て期において切れ目のない支援を行うことで、社会全体で未来を担う若い世代や子育て世代を支え、安心して子どもを生み育てられ、住み続けたいと思うようなまちづくりを目指します。						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	【ソフト事業経費】 ○夢が広がる未来応援事業 ・中学生を対象に、文化・スポーツ等の各分野の第一線で活躍する方の体験談を聞く講演会の開催（委託料等）2,974千円 【拠点整備事業経費】（交付金対象外経費） ○児童発達支援センター ・地域の障害児支援の中核的な役割を果たす児童発達支援センターについて、子どもやその家族への支援の拡充を図るための移転整備					〈令和7年度 かりやミライ授業講師 伊沢 拓司 氏〉 	
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①子育て世代の転出超過数（-44人） ②出生数（+90人） ③訪問支援件数（+320回） ④講演会の参加割合（+7.2%）						

重要業績評価指標（KPI）	事業開始前 （2024年度）	令和7年度 （2025年度）	目標値 （2027年度）	KPI達成度
子育て世代の転出超過数（人）	103	38（-65）	59（-44）	順調
出生数（人）	1,239	1,302（+63）	1,329（+90）	順調
訪問支援件数（回） （保育所等訪問支援・巡回訪問支援）	311	452（+141）	631（+320）	順調
講演会の参加割合（％）	84.73	90.12（+5.39）	91.93（+7.20）	順調

【※カッコ内の数値は前年度値との差。KPI達成度指標：順調／横ばい／低調】

〈実績・課題・今後の方向性について〉

実績	・地域の障害児支援の中核的な役割を果たし、子どもやその家族への支援の拡充を図るため、児童発達支援センターのR 9年度開設に向けた整備に着手した。 ・将来の夢や目標を持ちづらくなっている子どもたちに対して、芸術・文化・スポーツといった各分野の第一線で活躍されている方の体験談を聞く機会を創出することで、子どもたちが夢の選択肢を広げ、将来の目標を持つきっかけとする。	事業効果	B	〈事業効果の評価について〉	
				A	非常に効果があった （すべてのKPIが順調に推移するなど、大いに成果が得られた。）
				B	相当程度効果があった （一部のKPIが順調に推移するなど、概ね成果が得られた。）
				C	効果があった （KPIの推移は芳しくなかったものの、事業開始以前よりも事業が前進・改善した。）
課題	・変わりやすい子どもたちのニーズを的確に捉え、子どもたちの目線にあった内容の講師を選定していく必要がある。			D	効果がなかった （KPIの推移が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難い。）
今後の方向性	・引き続き、児童発達支援センターの開設に向けた整備を推進する。 ・引き続き、子どもたちに対して、芸術・文化・スポーツといった各分野の第一線で活躍されている方の体験談を聞く機会を創出する。				9